

ターゲット型球技の教育的価値に関する一考察

○長 澤 光 雄 (秋田大学教育文化学部)

キーワード ターゲット型球技、学習内容、教育的価値

1. 研究目的および方法

2002年4月、学校週5日制が日本において完全実施された。それに合わせ、内容を3割削減したとされる新学習指導要領が実施された。この学習指導要領にはいくつかの特徴があるがそれを踏まえ、体育の学習内容としてターゲット型球技(以下TBGと略す)を導入することを前提に、その教育的価値を検討する。

TBGはゴルフやボウリングが代表例とされるが、体育の学習内容としてほとんど取り上げられることがなくその評価はあまり高くはない。そのような環境であることから、体育の教育実践における資料は限られている。しかし、逆にその教育的意義について検討すべき時期に来ていると考え、近年の体育スポーツ関係資料等を参考に、体育の学習内容とする際の教育的価値について検討を進める。

2. 考察

2-1 TBGとは

球技は、様々な観点から類型化されている。ボールを使用するから球技と呼ばれるが、シャトルコックを使用するバドミントンも、一般的に球技に含まれると考えられている。ボールを使用しないながら、その特性が他の球技に類似した種目を含め、球技の類型化の例をみると、小学校高学年のボール運動の領域は、ゴール型のゲームとしてバスケットボールとサッカー、ベースボール型のゲームとしてソフトボール、ネット型のゲームとしてソフトバレーボールが示されている。

また、Belka(1994)、グリフィン他(1999)、岡出(2000)らが4分類している。これらを総合して、球技の類型化を行うと、侵入型とも呼ばれるゴール型、壁を使用する種目を含めたネット型、ベース型、ターゲット型と使用器具による類型化が可能である。そして、前項の2競技に加え、ポッチャ、カーリング、ペタンク、ゲートボール等がTBGに含まれる。

2-2 スポーツ界におけるTBG

今年のアテネオリンピックの301種目に、TBGは含まれていなかった。パラリンピックにはポッチャがあり、2002年ソルトレークシティー冬季オリンピックにカーリングがあった。2001年8月、秋田県でオリンピック種目以外で世界一を競う、第6回ワールドゲームズが開催された。この大会に、ビリヤードとブルスポーツ、ボウリングの計3競技11種目は、TBGとしての特徴を持っていた。また、ボールではなくプラスチック製の円盤を投げて、ゴルフと同じように18ホールをまわるフライン

ディスクのディスクゴルフが2種目含まれ、合計13種目のTBGが含まれていた。このように、国際総合スポーツ大会の種目を比較すると、競技レベルに反比例するように、TBGが多く含まれることに気付く。

また、総務省の社会生活基本調査(2001)によると、2位ボウリング、6位ゴルフと国民に実施され、60歳以上ではゲートボールも上位に上げられ、TBGが親しまれていることが分かる。

スポーツに最も縁遠いと思われ身体を自由に動かすことが困難な重度脳性まひ者が、チームの一員としてプレイできるスポーツとして、ポッチャの存在はスポーツ・フォア・オールを実現する今日の社会で大きな意義を持つと考えられる

2-3 体育におけるTBG

教科体育について調べると、一般の小・中・高校でTBGは含まれず、高校の専門課程の体育科にはゴルフが含まれている。このように、学習内容としてTBGは重きが置かれていない。しかし、TBGの特性をあげると、比較的安全で、手軽に実践でき、数値で個人の技量が把握でき、運動の正確性が必要で、結果もセルフジャッジが容易、結果を予測する洞察力それに伴う戦術が求められる点等である。また、偶然によって成績が左右される可能性が低く、自己決定の場面が存在する。さらに、見て楽しむより実践の楽しみが多い。

逆に、比較的軽い運動であることから、体力の向上を図るためには、他の運動によって補わなければならない。

学習内容の評価には学習者に受け入れられることも重要だが、僻地小規模校においてペタンクを試みた結果、学年を問わず活躍の場面があり、児童の興味も引いている。また、空いたペットボトルをピンに見立てたボウリングの実践や、グラウンドゴルフやターゲットバードゴルフなどの実践も、子どもの興味を引いている。

3. 結果および結論

以上、多くの国民に実践するスポーツとして親しまれ、独自の競技の要素を含むTBGは、学習内容として十分な価値を有すと共に、4類型化した球技の一部の学習機会を欠くことは、生活を豊かにすることが謳われる現在の体育の目標にかなっていないと考えられる。従ってTBGは体力向上には、あまり貢献はしないが、体育の教育的価値を十分有すと考えられる。